

平成13年度財団法人東洋文庫事業計画書

財団法人 東洋文庫
理事長 北村 甫

平成13年度財団法人東洋文庫事業計画の概要は下記の通りです。

事業目的

財団法人東洋文庫は、全国の代表的な研究者よりなる東洋学連絡委員会の企画ならびに審議にもとづき、広く学界の要望に応える全国的な、また国際的な東洋学研究センターとして、資料センター・共同利用研究施設としての機能を果たすべく、必要な各種の事業を行う。

事業項目

調査研究
研究資料収集
研究資料出版
普及活動
学術情報提供

事業内容

[目的] 東洋文庫は、研究センターとしての使命を遂行するために、東洋学の各分野における研究情報を5部門に分けて収集整理し、また、特定の研究課題ごとに研究委員会を組織し共同研究事業を行う。

[部門] (第1部門) 中国研究 (第2部門) 日本研究 (第3部門) 東北アジア研究 (第4部門) 中央アジア・イスラム・チベット研究 (第5部門) インド・東南アジア研究

[計5部門]

[研究委員会]

(第1部) 東亜考古学研究委員会、古代史研究委員会、唐代史(敦煌文献)研究委員会、宋代史研究委員会、明代史研究委員会、近代中国研究委員会 (第2部) 日本研究委員会 (第3部) 清代史(満蒙)研究委員会、朝鮮研究委員会 (第4部) 中央アジア・イスラム研究委員会、チベット研究委員会 (第5部) 南方史研究委員会 [計12委員会]

[事業]

調査研究

(1) 一般調査研究

新研究プロジェクト：「地域間比較の手法による伝統的社會の仕組みと展開に関する研究

- 東アジア・中央アジア・西アジアを中心に -」

平成12年度から4年間は、朝鮮・中国・中央アジア・西アジアを中心に、ユーラシア大陸を東西につらぬくアジア社會をとりあげ、写本・刊本・文書資料等にもとづいて伝統的社會のしくみとその展開を地域間比較の視点から体系的に考察する。

本年度は、特に、朝鮮研究委員会・東亜考古学研究委員会を中心に調査研究を行う。

A) 朝鮮研究委員会 (第3部門)

『朝鮮王朝後期戸籍大帳解題』の作成。

B) 東亜考古学研究委員会 (第1部門)

『中国古代都市遺跡研究』の作成。

C) 資料購入

(2) 特別調査研究

A) チベット特別調査研究

[目的] チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社會の総合的研究

[研究課題] チベット語文語辞典の編纂

[事業];

これまでの研究事業では、「チベットの歴史と文化の系統」(昭和43年度～同52年度の10ヶ年計画)の研究課題のもとに、各時代の基本的チベット語文獻(大藏經部經典、論部諸論著、史書、曆書、宗派別論著等)を解説・分析し、チベット文化の特性を明らかにすると同時に、チベット語文語の時代別・内容別の特性を把握することができた。昭和53年度からは、以上の成果を踏まえ、チベット人との協力のもとに、各時代の基本的文獻を資料とした『チベット語文語辞典』の編纂の準備を進めている。平成12年度からは、電子辞書形式での編纂を進めている。

[事業内容] ;

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会受入のチベット人研究者の協力のもとに下記の作業を行う。

東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂のカードを点検し、目録データベースを作成する。

チベットの伝統的仏教学の基礎教程について数冊の教科書を選び、実際にチベット人研究者とともに分析・研究を行う。

『チベット語文語辞典』編纂の基礎資料としてチベット仏教の基本的文献についてのデータベースを作成する。

2) チベット文献の収集・整理

研究上重要な西藏蔵外文献資料の収集、或いはチベット関係文献をインド・中国・欧米などにおいて出版された複製本またはマイクロ・フィルムによって補充する。

3) 研究成果の刊行

『チベット仏教基本文献』 第7巻 B5判 1冊 編集・刊行

『チベット特別調査研究年次報告』 A5判 1冊 編集・刊行

B) 近代中国特別調査研究

[目的] 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

[研究課題] 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

[事業] ;

財団法人東洋文庫の蔵書の基礎をなしているモリソン文庫は、1910年代までの中国関係の欧文図書・資料の一大コレクションであり、これを中心に東洋文庫は、1955年、近代中国研究委員会を設置し、その後このモリソン文庫に加えて世界屈指の資料収集の実を挙げ、これにもとづく研究成果と上記の収集資料とを公開して今日に至っている。これらをさらに発展させるために、昭和52年度以降、本研究を特別調査事業とし、近時各国から公表されつつある各種文書のマイクロフィルムを中心として、関係資料の収集・増補につとめ、専門研究者を動員して、その史料としての信頼性につき書誌的な調査研究をおこなっている。また、その資料内容の調査研究にもとづき、収蔵資料の件名目録を編纂し、これを刊行することを目標とする。

[事業内容] ;

1) 共同利用研究

在日中の国際的に著名な外国人研究者および国内の広汎な研究者の間で、専門研究について実質的な討論をおこない、また研究状況に関する国際的な情報交換をおこなうため、共同研究シンポジウムを開催する。

2) 情報交換および参考業務

近代中国研究委員会の「近代中国研究事務室」の活動にもとづき、国内・国外の研究者に対しその研究情報を相互に交換・提供するため、『近代中国研究彙報』を年1回発行し、また、一般の研究者・学生のために、収集図書・資料および各種の近代中国参考図書を公開する。これによって近・現代中国研究の内・外の情報センターとしての機能をはたす。

3) 図書資料の収集・整理

中華人民共和国・香港・台湾・日本で発行された人文・社会科学関係の図書・新聞・雑誌資料。

欧米を中心として諸外国で発行された人文・社会科学関係の図書・新聞・雑誌資料。

各国公表の外交関係などの第一次文書資料(主として、マイクロフィルムによる)。

4) 研究成果の刊行

『近代中国研究彙報』 第24号 A5判 1冊 編集・刊行

研究資料収集

(1) 一般研究資料収集

[目的]；

東洋学に関する基礎資料および新刊専門書の収集。30部門におよぶ和・漢・洋の所蔵資料の補充、約950種の定期刊行物の継続的収集。

[事業]；

- A) 資料調査：新刊書・稀覯書・古書の入手につとめるため、国内外の出版社・専門書店および刊行物を有する研究機関との情報交換によって、その出版状況を調査把握し、また、各研究室及び専門研究者に対して文献に関するレファレンスを行い、購入・交換のための図書撰択と収集の計画化をはかる。
 - 1) 図書・資料撰択リストカードの作成。
- B) 資料交換
 - 1) 国内交換：各大学・研究所の紀要類、主要学会誌を東洋文庫の出版物と交換し入手する。
 - 2) 国際交換：約500ヶ所の東洋学専門研究機関、主要大学と、東洋学関係出版物の交換を行う。
- C) 資料購入：国内・国外における洋書・和漢書・複写資料等の東洋学関係の新刊書をはじめ、未交換の定期刊行物を収集する。

(2) 特別研究資料収集

[目的]；

中央アジア(東西トルキスタン)地域、東アジア(中国・朝鮮)地域、西アジア(イスラム諸国)地域、東南アジア地域に関する現地語、アジア諸語特定資料、欧文・和文の研究図書資料を重点に収集・整理するが、他のアジア地域においても適宜収集に努める。

[事業]；

- A) 資料調査：新刊書・稀覯書・古書の入手につとめるため、国内国外の出版社・専門書店・刊行物を有する研究機関との通信連絡等によって、その出版状況を調査把握し、また、各研究室及び各専門研究者に対し文献に関するレファレンスを行い、購入、交換のための図書撰択と収集の計画化をはかる。
 - 1) 図書・資料撰択リストカードの作成。
- B) 資料購入
 - 1) 中央アジア(東西トルキスタン)地域
中央アジア(内陸アジア、乾燥アジア)に関する欧文・現地語の研究文献資料の収集・整理。
先方の事情により、十分収集できなかった旧ソ連邦および旧ソ連領中央アジア諸共和国刊行の定期刊行物の購入・補充、マイクロフィルム化、トルコ共和国所在の写本文献資料、およびそのマイクロフィルム、並びにモンゴル人民共和国刊行のモンゴル語資料の収集にも努力する。
 - 2) 東アジア(中国・朝鮮)地域
 - 1920年代以降の欧文研究図書・雑誌・資料(新刊を含む)の購入・補充。
稀覯書、並びに雑誌バックナンバーの複写資料の購入による補充。
影印中国地方志の購入・補充および中国近現代史関係中国新聞影印本の購入。
各国図書館・博物館等所蔵の碑文・写本・古刊本文献資料及び外交文書関係資料のマイクロフィルムによる購入・補充。
 - 3) 西アジア(イスラム諸国)地域
欧米諸国及び旧ソ連邦において公刊される研究図書、資料の収集。
イスラム諸国において刊行される各国語研究図書資料の収集。
欧米諸国、旧ソ連邦およびイスラム諸国において刊行される現地語の年代記・法典などの研究資料の収集。
欧米諸国・旧ソ連邦およびイスラム諸国において刊行される蔵書目録の収集。

欧米諸国・旧ソ連邦およびイスラム諸国の研究機関・図書館・古文書館に保存されている写本のマイクロフィルムによる収集。

稀覯書並びに既刊雑誌バックナンバーの複写資料の収集。

4) 東南アジア地域

東南アジア研究の基本古書籍マイクロ・フィルム資料の購入。

欧米諸国および旧ソ連邦において近年公刊された研究資料の収集。

越南の漢文および字喃文献の複写資料等の購入。

東南アジア各国の現地語により公刊された資料の収集。

5) アジア諸語特定資料

近年、重要な発見が相次いでいるベトナム語、タイ語、アラビア語、ヘブライ語、モンゴル語、満洲語などの文書資料を、主にマイクロ・フィルム等によって計画的に収集する。

(3) 研究資料保存整理

[目的]；

財団法人東洋文庫の所蔵資料のうち、大正6年に「モリソン文庫」が渡来してから85年、この世界に比類のないコレクションに収められている欧文の稀覯書、および他の貴重漢籍、また利用頻度の多い和漢書の中には、今のうちに装釘の補修をほどこして損壊を防ぐことの必要なものが多い。その原本の体裁を最大限に維持しつつ保存するために、早急に対処することが本事業の目的である。従って、昭和54年度以降、貴重資料の整理（補修・保存）の対策としては、従来、資料収集費事業の一部門として僅かな製本費等による「資料の整理」事業を「研究資料の保存整理」事業として独立強化し、製本室事業と写真室事業との協同により永久保存の事業を年度計画に基づき逐次推進する。

[事業内容]；

A) 貴重本の補修及び再製本（洋書および和漢書に分けて、重点主義で遂行する）および定期刊行物の製本（約1,000冊）。

B) 補修再製本済みの貴重本をはじめとする稀覯書およびマイクロポジフィルムとして収蔵している貴重資料を整理して写真複製し、製本して研究に供する。

C) 『新着図書目録』 第49号 B5判 1冊 編集・刊行

研究資料出版

(1) 一般研究資料出版

[目的] 国内に埋もれている、或いは新しく発表される東洋学に関する重要な研究業績を出版し、国内国外に紹介する。

[事業]；

A) 『東洋文庫和文紀要』（東洋学報）第83巻第1号～第4号 A5判 4冊 編集・刊行

B) 『東洋文庫欧文紀要』（Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko）No. 59 B5判 1冊 編集・刊行

(2) 特別研究資料出版

A)

[目的] 調査研究（東洋文庫事業）の成果を刊行して国内国外の研究機関および研究者へ紹介する。

[事業]；

『宋史食貨志訳註（四）』 A5判 1冊 編集・刊行（宋代史研究委員会担当）

B)

[目的] アジア研究の国際化をさらに促進すべく、東洋文庫を中心とする日本のアジア研究の優れた研究成果を、主に英文等の欧文を中心に『東洋文庫欧文論叢』として刊行する。

[事業];

『The Diversity of the Socio-economy in Song China 960-1279』

A5変型判 1冊 編集・刊行 (斯波義信研究員担当)

普及活動

[目的] 研究成果及び研究情報を一般に普及する。

[事業];

(1) 講演会の開催

A) 東洋学講座 春・秋2期 年6回

B) 特別講演会 (年約7回)

(2) 研究会(東洋文庫談話会)の開催(不定期)

(3) 『東洋文庫書報』 第33号 A5判 1冊 編集・刊行

学術情報提供

[目的];

東洋文庫は、日本における東洋学の共同利用の研究機関であると同時に、国内外の研究者並びに研究機関との連絡に当たって今日に至っている。従って、学術情報の提供に関する下記の諸事業は東洋文庫として最も力を入れているところである。

[事業];

(1) 研究者養成

[目的];

東洋学の各種分野の専門研究者を養成するため、特に未開拓分野に重点を置きつつ大学院博士課程終了程度の人材2名に「奨励研究員」として引き続き2ヶ年間の研究の機会を与える。

[事業内容];

西アジア研究 高松 洋一(東京大学P.D.)

「オスマン朝における文書諸様式の機能と官僚機構」

中国研究 佐藤 仁史(慶應義塾大学P.D.)

「中国近代における地方社会構造の変容と在地指導者層

- 清末明初の江南地方を中心に - 」

(2) 図書・資料の閲覧(協力)サービス

(3) 研究資料複写サービス

(4) 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報 第82巻4号、第83巻1、2、3号	各400部
敦煌・吐魯番出土社会経済史関係文書集	100部
A Study of the Bordered Red Banner Archives	100部
西藏仏教基本文献(6)	70部
近代中国研究 彙報 第23号	70部
東洋文庫書報 第32号等2種	各50部

(5) 研究者の交流および便宜供与のサービス

A) 長期受入

1) 国内研究者の受入

2) 平成13年度日本学術振興会特別研究員P.D.の受入

大河原 知樹(慶応義塾大学P.D.)

「イスラム法廷文書をもちいた中東の家族史研究：19～20世紀初頭のダマスカス」

(平成12年度採用、同13・14年度3ヶ年間受入)

3) 外国人研究者の受入

王 其 戈 モンゴル文化教育大学教授

「漢語文献に見られるモンゴル民族を中心とした

中国少数民族に関する関係資料の民俗学的研究」

(平成11年9月1日～同13年8月31日・私費)

SABRY, Muhammad エジプト・ヘルワーン大学所助教授

「オスマン期エジプトの知と思想 1517～1798」

(平成11年9月以降2ヶ年間・日本学術振興会招聘)

B) 研究者の派遣

C) 外国人研究者への便宜供与

D) 研究会等への会場提供サービス

(6) 特定研究資料の収集

(7) 研究資料の補修再製本・製本

(8) 参考情報提供サービス

A) 『東洋文庫年報』 平成12年度版 A5判 1冊 編集・刊行

(9) 広報普及

平成13年度財団法人東洋文庫特別事業計画書

財団法人 東洋文庫
理事長 北村 甫

平成13年度財団法人東洋文庫特別事業計画の概要は下記の通りです。

事業内容

I. 特別調査研究並びに研究成果の編集・整理等

(1) 日本学術振興会科学研究費補助金並びにその他助成金による事業

A) 平成13年度科学研究費補助金による事業

1) 基盤研究(B)の対象事業

[課題] 「ポストモンゴル期におけるアジア諸帝国に関する総合的研究」 [研究代表者: 志茂碩敏]
(平成11年度採用3ヶ年間・最終年度)

[目的];

最近の一連の研究により遊牧部族連合国家モンゴル帝国の国家構造が解明された。本研究はポストモンゴル期の諸帝国について、ペルシア語を中心とする西アジア諸語良質写本を利用して考察し、従来の西洋中心史観、イスラム史観に惑わされることなく、その国家構造を解明することを目的とするものである。

[事業計画];

- (1) 各分担者は当該帝国関係史料に見られる遊牧国家固有の術語とその用例を整理して当該帝国の国家構造を明らかにする。
- (2) 各帝国間の国家構造とモンゴル帝国国家構造との比較を通し、ポストモンゴル期の各帝国を匈奴以来の一連の遊牧国家の系列上に正しく位置づけ、その世界史的意義を明らかにする。
- (3) 当該研究の報告書を作成する。

2) 研究成果公開促進費(データベース等)の対象事業

[名称] 「東洋学総合情報システム」 [東洋文庫電算化委員会委員長: 北村 甫]
(平成6年度以降採用、13年度申請予定)

[分野] 「アジアの諸言語で書かれた文献およびアジアについて書かれた書籍」

[目的];

本データベースは、東洋文庫所蔵のアジア諸国語によって書かれた文献を中心に、所蔵目録、解題目録、目次表、古典的文献の全文テキスト、写本画像などのデータベース作成を目指す。東洋文庫は東洋学に関する日本最大の図書館であり、その蔵書目録を簡便に検索できるようにしてほしいとの要望は大きい。これらについて、館内での作業および検索に際しては、欧文・和文は言うに及ばず、アジア諸言語についても、できる限りオリジナルの文字を使用し、やむを得ない場合でも学界で標準的に用いられている転写文字を使用して目録データの入力・表示を行うことによって、コンピュータ上でも正確で利用しやすい情報蓄積が可能となる。これら特殊語を同一のフォーマットのもとでデータベース化する試みは他に類を見ない。

また、所蔵目録のみではなく、テキストデータや目次、索引などもデータベース化して入力することにより、同一のデータから紙媒体での印刷、インターネットでの簡便な情報提供、各言語の文字を使用したデータベースでの公開など、複数の公開手段を使って、できる限り多くの研究者に利用していただけるようにしている。

平成8年度から順次CD-ROMおよびInternetによるファイルの配布を始めている。平成10年度か

らは内部でもデータベースの検索ができるようになった。

[事業計画]；

アジアの諸国語で書かれた文献(マイクロ・フィルム、マイクロ・フィッシュも含む)について、コンピュータによる将来性・互換性・公共性を考慮したデータの記入法を検討し、東洋文庫所蔵の文献目録・日本における文献の所在目録・詳細な解題目録・研究文献目録・テキストデータベース・各種索引を作成し、電子メディアの形で供給する。平成13年度は、平成6～12年度中に作成したデータベースの継続入力、公開用データベースへの変換、画像データベース、マイクロフィルム・マイクロフィッシュ目録を進めるほかに、アラビア語・ペルシア語・中央アジア諸語・チベット語・欧文の新規図書目録、中国文文献目録の作成を継続する。

3) 科学研究費新プログラム方式による創成的基礎研究の対象事業

[統轄・課題]「現代イスラーム世界の動態的研究 - イスラーム世界

理解のための情報システムの構築と情報の蓄積 - 」[研究代表者：佐藤次高]

(平成9年度新規事業・5ヶ年間・最終年度)

[目的]；

本研究の第一の目的は現代のイスラーム世界をその動態において解析することである。ここでいうイスラーム世界とは、いわゆる中東・北アフリカ地域だけではなく、ロシア・中央アジア・中国・南アジア・東南アジア・アフリカ・ヨーロッパさらには南北アメリカをも含んでいる。もちろんわれわれが対象とするのは、宗教としてのイスラームに限られない、文明としてのイスラームである。このようなイスラーム世界に着目すると、ここには豊かな歴史と伝統をそなえた独自の文明とともに、民族問題・地域紛争・人口爆発・環境破壊・政治の民主化と人権の問題など、現代世界が直面する重要な問題が集約的に見いだされる。本研究はこのように多様な地域の諸問題をイスラームをキーワードとして総合的に理解することをめざす。

第二の目的は、このような研究をとおして新しい地域研究の手法を開発することである。ここでは、思想・宗教・政治・経済・歴史などの学問領域を越えた学融合を試みるとともに、国際的な共同研究の基盤の整備をはかり、三次元地理情報システム、多彩なデータベースの構築などを実現するためのコンピュータ技術の積極的な開発・応用を試みることになる。

第三の目的は、次代のイスラーム地域研究を担う若手研究者の育成であり、あらゆる機会に若手研究者の参加を募るほか、日本学術振興会特別研究員の制度を活用して内外の若手研究者の育成につとめる。本研究は、以上の活動をとおして21世紀の世界の動向を左右するイスラーム世界の動態を把握し、「実証的な知の体系」を築き上げることを目的とする。

また、研究の全体を統轄するために研究代表者を中心とする総括班を組織し、その下で6つの研究班、すなわち「イスラームの思想と政治」・「イスラームの社会と経済」・「イスラームと民族・地域性」・「地理情報システムによるイスラーム地域研究」・「イスラームの歴史と文化」・「イスラーム関係史料の収集と研究」などの研究班が、個々の研究課題に即して、研究会の開催、研究者の海外派遣と海外からの招聘、国際研究集会の開催などの活動を展開することとする。(以下、略)

[第6班課題]「イスラーム関係史料の収集と研究」[研究代表者：北村 甫]

[目的]；

東洋文庫に拠点をおく本班は次の2点を目的にイスラーム地域研究に用いられる史資料の収集・研究を行う。

(1) まず、本班は研究プロジェクト全体の「資料室」としての役割を担い、前近代イスラーム地域研究に必要な各種資料をひろく収集する。さらに収集された図書出版物の有効利用のため、図書情報のデータベース化、オンライン情報提供を行う。永年の現地語資料収集・図書データベース構築の経験をもつ東洋文庫の技術的蓄積を本プロジェクトに利用すると同時に、他研究機関との連携強化、収書対象地域の拡大などを通じ、東洋文庫の研究センターとしての機能を高めることが本班の目的のひとつである。

(2) イスラーム地域の歴史史料への理解を深め、それらを効率的に利用するための基礎的研究を行う。ここでは主に写本や文書などの歴史一次史料を対象とする。一冊の写本、一枚の文書に内在する世界

と、それらが時代を越えて現存するにいたった背景を理解することは、それぞれの地域の文化や歴史を理解することに他ならない。本研究では、歴史文書や写本がもつ固有の構造を史料学的に検討することを通じ歴史的なイスラーム地域の基層構造に光をあてることをめざす。また、それぞれの史料の性格に合致した手段でのデータベース構築を行い、それを利用した新しい歴史研究手法の開拓を試みる。

[事業計画]；

(1) 前近代イスラーム関係資料の収集と図書情報のデータベース化

本年度も、前年度にひきつづき前近代イスラーム関係資料の系統的な収集を行う。収集資料は図書を中心とするが、マイクロフィルム、電子出版物などの収集も積極的に行う。収集した資料の図書データは、各言語の固有文字をもちいてデータベース化される。東洋文庫では永年にわたり多言語図書情報データベースの構築にとりくんできたが、その技術をここに利用する。構築されたデータベースは、CD-Rom版東洋文庫所蔵カタログに収録され、プロジェクト参加者に頒布される。また、東洋文庫の所蔵データベースと合体した上で、インターネット上でのオンライン検索による当該データベースの利用を実現する。

(2) 歴史史料に関する史料学的研究

イスラーム世界各地には、写本、文書のかたちで、多数の歴史史料が残されてきたが、現地における史料整理のおくれなどから所在状況やその内容が十分に知られているとはいえず、それらを用いた研究は端緒についたばかりである。このような現状に鑑み、本班ではペルシア語文書、オスマン語文書(政府文書、法廷文書、テメトゥアート台帳など)、宮廷儀礼に関するアラビア語写本などに関する研究会・ワークショップ・セミナーなどを実施し、これらの史料群にたいする理解を深めることをめざす。

(3) イスラーム地域研究へのコンピュータ利用に関する研究

イスラーム地域研究にかぎらず、書誌情報や史料に含まれるデータを効率的に扱うためにコンピュータが有効な手段を提供していることは議論をまたない。しかし、日本におけるイスラーム地域研究の現場においては、その必要性と可能性に比べ、十分な活用が行われているとはいえない。本班では、(1)(2)の各活動を支援することを主な目的に、アラビア語と日本語を中心とした多言語環境、アラビア語図書情報オンライン化、イスラーム地域研究に有効なインターネット利用などのテーマに関する情報収集と研究を行う。イスラーム地域研究者のニーズと技術的な現状との接点を明らかにすることがここでの目的である。

[平成13年度具体的事業内容]；

- (1) 中東諸国に加え、南アジアおよび東南アジアで、ムスリム関係図書の収集にあたる。データベースの作成、公開を引き続き行う。
- (2) アラビア文字系文献データベース連絡会および、共通データベース作成作業班の活動を引き続き行う。またプロジェクト終了後も作業を継続できる体制づくりを行う。
- (3) 成果のとりまとめにむけて、各研究会ごとの総括的研究会を実施する。
- (4) 最終年度の国際シンポジウムにおける6班担当セッション、"Contract, Validity, documentation"(仮題)を組織する。そのための招聘を行う。
- (5) 成果の公刊準備をすすめる。具体的には、欧文叢書として刊行予定のThe Ottoman State and Local Societies in Change、ならびにStudies on Persian Archivas Sources、訳註書『カリブ宮廷の儀礼』の編集作業を行う。

4) 基盤研究(C)の対象事業

[課題] 「『翻訳名義大集』における梵・蔵・蒙・漢語仏教語彙の基礎的研究」

[研究代表者；福田洋一] (平成12年度新規採用・2ヶ年間)

[目的]；

『翻訳名義大集』は、古代チベット王国において梵語仏典をチベット語訳するに際しての訳語の基準を定めたものとして編纂された梵・蔵対照仏教語彙集である。約9000の項目が内容別に分けられて収録されており、チベット語仏教用語に対応するサンスクリット語を知る上で、もっとも信頼のおける資料である。また、清朝時代にはモンゴル大蔵経を編纂する際にモンゴル語訳が付され、民間でも、別にモンゴル語訳と中国語訳を加えた梵・蔵・蒙・漢対照の『翻訳名義大集』が編纂された(ペテルスブルグ

写本)。大正5年には榊亮三郎が後者の写本の書写ノートを元に『翻訳名義大集』を刊行し、現在に至るまで版を重ねている。しかし、榊本は時代的な制約もあり、批判的校訂本とは言い難いものであった。

そこで本研究申請者二名は、チベット大蔵経四版(梵・蔵対照のナルタン版、北京版、デルゲ版、チョーネ版)および、モンゴル大蔵経(蔵・蒙対照の北京版)、ペテルスブルグ写本(梵・蔵・蒙・漢対照)を対校した『新訂翻訳名義大集』(東洋文庫、1989)を刊行した。同書は、チベット大蔵経諸版を対校したばかりではなく、従来顧みられなかった二種類のモンゴル語訳を収録した点でも画期的であったため、刊行後程なく絶版となり、再刊を求める声が多数寄せられた。しかし、同書には、漢訳語の欠如、新たな写本チベット語大蔵経の刊行、索引の欠如、モンゴル文字転写の誤読、他の仏典資料との比較をしていないなど、文献学的には不十分な点が多々あり、そのままの形で再刊することは留保してきた。本研究は、以上の問題点を解消し、梵・蔵・蒙・漢にわたる仏教語彙研究を集大成した決定版『翻訳名義大集』を作成するための基礎研究を行う。

[研究計画];

- (1)チベット語の新発見の写本大蔵経(『金写丹珠爾』)を対校することにより、より正確なチベット語校訂を行う。
- (2)中世モンゴル語の研究成果に基づき、モンゴル文字転写を見直す。その際、モンゴル語とチベット語を、語の構成要素にまで分解して対応させた索引を作成し、不明瞭なモンゴル語の表記を統一的に読解できるようにする。
- (3)仏教サンスクリット語の語彙については、前回はチベット大蔵経の読みをほぼそのまま採録したにとどまり批判的校訂が十分ではなかったため、最新の仏教研究の成果を参照し、サンスクリット語の批判的校訂を行う。
- (4)漢訳語の調査をする。上記写本に含まれる中国語訳は、必ずしも伝統的な漢訳語ではなく、当時の中国語で新たに翻訳したものが付されていることが多いので、新たに調査をする。
- (5)最近10年間に各種の仏教文献の索引が多数刊行されたので、それらを参照し、批判的校訂の資料とする。
- (6)前著をもとにデータベースを構築し、校訂作業をコンピュータ上で行う。
- (7)成果は、データベースから自動的に電子テキストとして作成し、検索の便を図る。

5) その他の科学研究費補助金の新規申請予定

B) その他の平成13年度研究助成金による事業

1) 三菱財団人文科学研究助成の対象事業

- (1)[課題]「サンクト・ペテルブルグ所蔵内陸アジア出土文書の総合的研究 III」

[研究代表者:佐藤次高](平成12年10月~同14年9月・2ヶ年間採用)

[目的];

1900年、中国甘粛地方の敦煌において、5世紀初めから11世紀までの文書群約6万点が発見された。これは中央アジア諸民族の興亡と中国の漢族との関係など、従来の歴史研究の空白を一挙に埋める今世紀最大の原文書の出現である。その文書の内容は、仏教文化を伝承した敦煌にふさわしく仏典の写本が最も多いが、敦煌を含む内陸アジア出土の文書には、各宗教の教典、文学、歴史書、行政・軍事関係の公文書、寺院関係などの私文書、暦、医薬書など多種多様である。

ところが、発見より10年ほどの短期間に、これらの文書はイギリス、フランス、ロシア、中国、日本など世界各地に四散秘蔵される結果となった。(財)東洋文庫は、敦煌文献研究センターとして、既にロンドン、パリ、北京にある敦煌文書のマイクロフィルムを組織的・網羅的に収集して多くの研究成果を公表し、内外の研究者に貢献してきた。今回は、交渉をかさね、世界にさきがけて唯一未収集のロシア科学アカデミー東洋学研究所St・ペテルブルグ支所蔵敦煌等文書をマイクロネガフィルム化することが可能になった。同文書には、漢文文献のほかにはチベット語、ウイグル語、西夏語、ソグド語、コータン語、サンスクリット語、満洲語、モンゴル語などアジア諸言語の文献を含んでおり、内陸アジア諸民族

の歴史、言語、宗教、文学などについて、より一層の総合的研究の推進に大きく寄与するものと確信する。

[事業計画]；

(財)東洋文庫では、1953・4年に大英博物館所蔵A・スタイン卿将来の敦煌文書約8,000点をマイクロ化して収集して以来、敦煌文献研究センターとしてその資料を一般に公開し、共同研究を実施してきた。敦煌等文書収蔵主要4か国のうち、今日までにロンドンの大英図書館(旧インド省図書館の敦煌等文書を含む)約16,000点(92,000齣)、パリ国立図書館約7,000点(54,000齣)、北京図書館約9,000点(13,000齣、「一説に約16,000点現存とも言われる」)のマイクロフィルムを収集し、それらを広く日本および世界の研究者の利用に供するとともに、多くの研究成果を発表してきている。

そこで、本プロジェクトでは、世界屈指の内陸アジア将来文書を保有するロシア科学アカデミー東洋学研究所St.ペテルブルグ支所所蔵の非公開文書約19,000点・約250,000齣におよぶ膨大な量のマイクロフィルムを収集することを最大の成果と考えている。また、世界にさきがけて撮影したマイクロフィルムを一般公開することにより、個々の研究成果のほかに日本国内、さらには日露共同研究などの基盤をととのえ、研究体制を組織することも本プロジェクトの目的の一つである。

(財)東洋文庫では1993年より交渉を重ねて、1996年からは三菱財団人文科学助成金等を得て、毎年、各言語の専門研究者を現地に派遣して予備調査を実施してきた。その結果、2000年9月までに収集した内陸アジア関係の年次順・言語別文書のフィルムは、西夏語、ウイグル語、コータン語、ソグド語、サンスクリット語、クチャ語、マニ文字、パルティア語、トカラ語、チベット語、満洲語、モンゴル語、漢文、ペルシア語等、合計305Reels・198,611齣である。

現時点でのフィルム反転による整理・調査についていえば、各種の宗教書のほか、6~14世紀頃の内陸アジア諸民族による東西交流の実態、特に売買契約文書や商業流通ネットワーク構築など当時の社会経済をうかがわせる文書、各種法典類、伝記、辞書、文学作品の原典、あるいは、満漢合璧の『百二老人語録』による八旗の満州人の生活実態記録など、まさに本プロジェクトの研究目的に値する内容であることを確信した。(以下、中略)

また、平成12・13年度に採用となった本プロジェクトは、最終段階を迎えているが、今後の研究の将来計画・課題としては、内陸アジア諸民族の言語のうち、チャガタイトルコ語を中心とする中世トルコ語文書のマイクロフィルム約25,000齣の収集と、これまでの既収フィルムで現地調査リストに撮影漏れ等文書の追加収集を焦眉のことととらえている。そのために2001年に2名の専門研究者を派遣する予定である。

本プロジェクトは、東洋文庫の三菱財団助成によるロシアSt.ペテルブルグ支所所蔵の内陸アジア諸民族関係文書資料のマイクロ化事業が、ロシアの世界的文化遺産を保全するとともに、その遺産を網羅的に収集していることに、日本国内をはじめ世界的にも多大な関心と注目が集まっている。そこで、緊急の課題として収集済みマイクロフィルムの分析・整理を実施しているが、一般公開にむけて、各言語の書誌的データをとり入れた仮目録を作成することを第一の課題とする。次に第二の課題は、(財)東洋文庫を拠点に東洋文庫研究員をはじめとする国内の専門研究者とともに、随時、海外の専門研究者の参加を得て、内陸アジア諸民族の歴史・文化・言語・宗教・社会経済等の分野における総合的研究を早急に推進することである。

(2) [課題] 「イスラーム法廷文書の社会史的研究」

[研究代表者：三浦 徹] (平成11年10月~同13年9月・2ヶ年間採用)

[目的]；

イスラーム法廷文書には、婚姻や相続、売買・賃貸借、債権・債務といった日常の各種の契約が記録され、オスマン朝時代のトルコ、シリア、エジプト地域の諸都市で記帳された数万冊の法廷台帳(15-20世紀)は、住民の社会生活の細部までを照らす史料の宝庫といえる。

法廷台帳の史料としての特性は3つある。第1は、イスラーム法に則り、記載の書式や手続きが定められ、個人間の個別な取引を一定の書式で記録していること、第2には、契約の正当性は、証人などの第三者によって保証されることから、証書をめぐって、人的ネットワークがつくられていたこと、第3に、法解釈や適用をめぐり、行政官、裁判官、住民の応酬がみられることである。

従来法廷文書を用いた研究では、このような「法廷」の記録としての特性が見過ごされ、社会経済

のデータだけが独り歩きしていた。本研究では、史料学的分析、法学的検討、データベースを用いた統計的分析を総合し、地域社会のメカニズムを解析することをめざす。

中東研究では、文書史料をもちいた社会史研究が新たな研究分野を拓いている。政治・社会の動向を、単にイスラームの制度や法に還元して理解するのではなく、個々人の行動と社会秩序の動的な関係を解析するために、法廷文書研究は、必須の課題となっている。

[研究計画] ;

(1) 「法廷関係資料の調査」 都市・地方の個別研究のもとに当該地域に関する法廷文書などの資料群を、現地の文書館で閲覧・収集する。計画申請の段階では、イスラーム法廷とその台帳・証書を調査対象としていたが、法廷の地域社会における役割を検討するために、法廷に関する行政関係文書やヨーロッパの領事館報告など、広く文書史料にあたることにする。

(2) 「史料のデータベース化」 文書史料研究には、史料のデータの統計的分析が必要であり、このため、収集した史料のデータベース化を行う。

(3) 「地域間の比較研究」 (1)の都市・地域に加えて、マグリブ、イラン、南アジアなどを含めて、法廷および法廷文書の比較研究をすすめる。このため、資料の分析には、共同研究を行うことで、視野を広げ問題を掘りさげ、イスラーム地域研究第6班と連携し、学術振興会外国人特別研究員として来日するBrigitte Marino氏(ダマスカス・フランス・アラブ学研究所研究員)氏にも協力をお願いする。平成13年10月に予定されているイスラーム地域研究国際会議では、契約文書をめぐるセッションを組織する。

(4) 「研究の成果」 研究の成果は、『東洋学報』などの学術書に寄稿するほか、オスマン史学会(CIEPO)など海外の学会で報告し、外国語論文として発表することで、国際的な寄与をめざす。

(3) [課 題] 「東アジア地域学(19、20世紀)のための基礎研究」

[研究代表者 : 斯波義信] (平成13年度新規申請予定)

[目 的] ;

近代東アジアにおける国際関係(政治、経済、社会、文化)の動態をトータルに考察し分析するに当たって、その基本をなす基礎データは、これまで中国、日本等々の国家を単位として系統立てられ、整理されてきた。しかしながら、これでは「近代東アジア地域」全体の同時代性、相互関連性、それらの総合的かつ学際的な分析の必要性が力説されている今日からみて、不適切といわざるをえない。本プロジェクトは、こうした現代の知的動向に即応して、(財)東洋文庫がその豊富な収蔵をもって世界に誇る19、20世紀東アジアに関する資料を、総合的な考察に資するデータベースに整理し、これによって広く内外の研究者が求める学問的要請に応えようとするものである。

[研究計画] ;

東洋学のための有数な研究図書館として歩んできた(財)東洋文庫は、(1)G.E.モリソン氏旧蔵「モリソン文庫」、(2)近代中国研究委員会収集「近代中国関係資料」、(3)明治開国百年記念文化事業会収集「近代日本関係資料」を三本柱とする、19、20世紀東アジア地域関係の欧文、和文、中文のデータを系統的、網羅的に収蔵しており、その内容は広く文献、マニュスクリプト、パンフレット、書簡、調査記録、画像、地図等々に及んでいる。本プロジェクトでは、電算機入力を通じて、こうした情報群を社会諸科学、歴史学など人文諸科学における「東アジア地域研究」の統合的利用に供しうる総合的なデータベースと化し、各分野、領域からする多角的な検索に対応することを目指しており、(財)東洋文庫所蔵資料の公共利用性を格段に高めるものである。

(2) 各研究委員会による収集資料の整理・研究並びに研究成果の編集等

A) 東亜考古学研究委員会

(1)故梅原末治評議員(京都大学名誉教授)の寄贈にかかる東亜考古学資料(写真、実測図、拓本、野帖等)の整理とその目録の作成。

(2)「中国古代都市遺跡研究」の作成。(以上、前年度の継続)

B) 古代史研究委員会

- (1)中国古代都市研究会の開催。
 - (2)中国古代史研究会（中国古典籍の読書会）の開催。
 - (3)「中国古代都市遺跡研究」の作成協力。（前年度の継続）
 - (4)東洋文庫所蔵中国画像銘、造像銘、墓碑銘拓本の整理研究。
- C) 唐代史（敦煌文献）研究委員会
- (1)国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。
 - (2)内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌等文献及びそれらの研究成果の公開・情報の提供。
 - (3)敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集及びそれらに引用された出土文書番号の採録カード（目録補遺）の補充。
 - (4)内陸アジア出土古文献研究会の開催。（以上、前年度の継続）
 - (5)日本現存中国拓本研究会の開催。
- D) 宋代史研究委員会
- (1)『宋史食貨志訳註(四)(五)(六)及び総索引』の作成。
 - (2)『朝野類要訳註』の作成。（以上、前年度の継続）
 - (3)『宋会要輯稿』食貨之部の要項（地名、一般）及び語彙索引の作成。
 - (4)宋代研究文献目録及び速報の作成。
- E) 明代史研究委員会
- (1)明代社会経済等に関する文献の講読および研究会の開催。（前年度の継続）
- F) 清代史（満蒙）研究委員会
- (1)「東洋文庫所蔵満文 案」の整理・研究。（隔週、研究会の開催）
 - (2)各国所蔵の満洲語文献の総合的調査・研究。（以上、前年度の継続）
- G) 近代中国研究委員会
- (1)近現代中国関係資料の書誌的研究。
 - (2)近現代中国関係資料の収集、整理。
 - (3)戦前期中国実態調査の総合的研究。
 - (4)日中現代史研究会の開催。（以上、前年度の継続）
- H) 日本研究委員会
- (1)『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題（ ）（ ）』の作成。（前年度の継続）
 - (2)日本関係洋書解題目録の作成。
- I) 朝鮮研究委員会
- (1)『朝鮮王朝後期戸籍大帳解題』の作成。（前年度の継続）
 - (2)漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。
 - (3)李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。
- J) 中央アジア・イスラム研究委員会
- (1)イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。
 - (2)ロシア所蔵中央アジア古代語文献の総合的研究。
 - (3)イスラム社会の構造の研究。（以上、前年度の継続）
 - (4)中央アジア・トルコ諸民族史の研究。
 - (5)隊商貿易史の研究。
 - (6)トルコ日本両国の近代化の比較研究。
- K) チベット研究委員会
- (1)東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。
 - (2)チベット学に関する研究会の開催。（以上、前年度の継続）
- L) 南方史研究委員会
- (1)東南アジア・南アジア関係歴史言語資料の調査・収集・研究。（以上、前年度の継続）
 - (2)タイ語関係研究資料の整理、目録の作成。
 - (3)辻文庫目録(3)、荻原文庫目録のIndexの作成。

平成13年度財団法人東洋文庫特定事業計画書

財団法人 東洋文庫
理事長 北村 甫

平成13年度財団法人東洋文庫特定事業計画の概要は下記の通りです。

事業内容

[事業名] アジア関係資料データベース化プロジェクト [プロジェクト代表: 山本達郎]

[期間] 平成13年度～同17年度(5ヶ年計画)。

当初予定された事業は完了したので、新たにアジア関係の資料のデータベース化事業を推進する。

[目的] 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するためであったが、当初予定の事業を終えたので、今後は広くアジア関係資料の公開も含め、データベース化事業を推進することを目的とする。

[事業] アジアを中心とした資料の整理公開のためのデータベース化事業を進める。

平成13年度ユネスコ東アジア文化研究センター事業計画書(案)

財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センター
所長 石井米雄

ユネスコ東アジア文化研究センターは、東アジアを中心とするアジア諸地域を対象とする人文・社会科学の分野の総合的調査研究を行ない、かつ当該分野の研究に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし、研究情報の交換、研究者の交流の促進、および研究成果の普及を図るために、次の事業を行なう。

事業項目

ユネスコ協力事業

学術情報事業 - アジア・北アフリカ人文・社会科学関係 -

1. "Asian Research Trends" の編集・出版
2. 国内外研究情報の収集

コンピュータネットワーク事業

1. 研究情報データベースの作成
2. コンピュータネットワークの形成

重要文献の研究・保存事業 - アジア重要文化財(文献)の研究・保存 -

1. アジア史料の研究・保存

事業内容

ユネスコ協力事業

ユネスコ本部および日本ユネスコ国内委員会の企画・運営する事業に協力し、関連する諸事業を推進する。

(1) 「中央アジア文明史」編集協力

対象事業：ユネスコ本部企画出版「中央アジア文明史」。

実施事業：「中央アジア文明史編集協力委員会」の組織。

同シリーズ第5巻・第6巻（16世紀 - 20世紀）の編集協力。

(2) 参加事業計画

対象事業：ユネスコ本部「参加事業計画 2000-2001」。

実施事業：「Asian Research Trendsの編集・出版」（ - 1 ）事業。

(3) 「日本の哲学・思想」情報提供

対象事業：日本ユネスコ国内委員会・東洋文庫設置インターネット・ウェブサイト「日本の哲学・思想」。

実施事業：ウェブサイトの公開・維持管理。

学術情報事業 - アジア・北アフリカ人文・社会科学関係 -

アジア・北アフリカ諸地域の文化・社会に関する調査研究を実施する。併せて、関連する情報を組織的かつ継続的に収集・交換・公開することによって、国内外の諸研究機関および研究者の間の交流・協力を促進する。

1. “Asian Research Trends” の編集・出版

出版物名：“Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review,” No.12.

出版内容：アジア・北アフリカ諸地域研究の動向。アジア研究機関訪問調査報告。講演・研究報告、その他。

2. 国内外研究情報の収集

国内外のアジア・北アフリカ研究機関および研究者の活動に関する情報を収集し、国際的な学術交流のための基礎資料とする。

(1) 国内研究情報の収集

実施事業：訪問調査。資料交換。共催事業。

対象機関：国内の大学・研究所・図書館・学術団体等。

関連事業：「東洋学」関連研究機関ネットワーク形成。

(2) 国外研究情報の収集

実施事業：訪問調査。資料交換。講演会・研究会の開催。共催事業。

対象地域：韓国・中国等の東アジア地域、タイ・ベトナム等の東南アジア地域を中心として、南アジア・中央アジア・西アジア・北アフリカを含む。

(3) 海外専門家の招聘

実施事業： アジア学の専門研究者の短期招聘。 他機関による招聘者の受け入れ、便宜供与。

(4) フランス国立極東学院との学術協力

実施事業： フランス国立極東学院（E F E O）東京支部（東洋文庫内）を通じた同学院との学術交流の推進。

コンピュータネットワーク事業

学術研究情報を組織的に収集し、コンピュータ入力してデータベース化する。収集データは、コンピュータネットワークおよび英文出版物により一般に公開する。

1. 研究情報データベースの作成

(1) 国内研究者ディレクトリの編集・出版

実施事業： 国内研究者名簿（ディレクトリ）の編集。

対象分野： アジア歴史学。 アジア言語文学。 印度学仏教学。 中国学。 韓国・朝鮮学。

(2) 国内研究文献目録の編集・出版

実施事業： 国内研究文献目録の編集。

対象分野： 中央アジア研究文献。 中東・イスラーム研究文献。 明治初期翻訳文献。 東方学研究文献。

2. コンピュータネットワークの形成

(1) 東洋文庫ホームページによる情報提供

実施事業： 研究情報データの一般公開。

(2) 国立情報学研究所への情報提供

実施事業： 研究情報データベースの提供。 国立情報学研究所の情報検索サービス（N A C S I S - I R）を通じて、研究者・研究機関に公開する。

重要文献の研究・保存事業 - アジア重要文化財（文献）の研究・保存 -

アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献を、アジア重要文化財として保存し普及させるため、複製・翻訳等の方法によって紹介し、研究者の利用に供するとともに広く一般読者の理解を得る。

1. アジア史料の研究・保存

(1) 「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集・出版

実施事業： フランス国立極東学院（E F E O）所蔵『国朝処置萬象事宜録』（漢文）の写真複製、およびその英訳・訳注・解説書の出版。ベトナム関係史料の調査研究。

(2) 「繊維考古資料の研究」の編集・出版

実施事業： 絹・麻等の繊維考古資料に関する研究書の英文出版。著者：布目順郎京都工芸繊維大学名誉教授。

(3) 「朝鮮植民地期文化財調査報告書」の編集・出版

実施事業：朝鮮総督府時代に実施され、未公刊の文化遺跡調査報告書。著者：有光教一高麗美術館研究所長・京都大学名誉教授

(4) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及